第

參

157
107

紀元二千五百九十年版

奥山

第參

奥山會刊行

磯谷紫江氏寄贈本

奥山自叙伝
奥山
昭和二十年五月八日十時
奥山自叙伝
奥山
巻
巻
奥山自叙伝原本

本曾街道六十九次之内●守山●國芳畫

江戸名所・百人美女・豊國畫

奥山會記

八月十八日晴天、日中は九十度近くの氣溫、午後は幸に微風そよ〳〵、街路樹ゆらぐ夕間ぐれ、打水の礫に光る歩道を、辨天山の時報鐘聞流しながら、白地好みの打扮して駒下駄の足搔も輕く、萬盛庵の表木戸へ打寄せる。陣幕めいた麻の暖簾を押分け進み入れば、高閣の八疊には早くも西箇原の豪傑伊藤忍々洞、建長寺の長老稲田吾山の両大將が、先登佐々木梶原の儲け役。宇治の出花の正喜撰にのむどを潤し、花橘の小じンまりとした新座敷に陣取つて、今や香圍粉陣の境に趺坐し、閑に山光水色の詩材を擧示される。眼には青葉山時鳥鳴く朧の空に、松魚の意氣のよい宵は、星月夜鎌倉にとどめをさすがに、両師家の脫俗振を尊くも拜まれた。それに引代へ三番備へに立つたのは、なまくらぶしやうの拓老。次は寺崎御曹司、永江博爵、本多國手、今井畫伯の諸先達。聊かおくれて引續く若武

者大野翠柳子の颯爽たる風姿を加へて同勢八まんき。鼻面を揃へておの〳〵御持參の兵器を示し、『首より上か』『あてがふ方か』と詮議まち〳〵、課題の甚だヤヤッコしいところを非難攻撃。今日はいつもに似ず磯ヶ谷の城主兜の紫江郎が遲參、奥山誌の二番手やら傳票の輜重が到着せぬので、雷門の郵便局へ早打を出すなどの經緯があつて、まごついて居る矢先へ、四谷西念寺の阿闍梨西島の〇丸坊、白馬に白磨の鞍置き、白星の鎣を戴き、白鞘の太刀を佩き、白衣白袴の一手で押寄せる。其後から紫江郎がのッそりと少々脹れ上つた膝栗毛に跨つて大童面を顯す。これで女子(あまつこ)なしの十勇士、昔の賤ヶ嶽は七本槍、當世では利に利が附いて十人槍サ。暑中ではあり、八疊の廣間に十勇士が丁度宜いなんどと、旋風機に尻を向けて吹いたり吹かれたりして居る。と少し經つて籾山の髻華房、刺高(いらだか)の珠數を首に懸け、袈裟頭巾の高足駄のッそ〳〵と、長卷を引ッ提げた山法師姿と思ひきや、學校退出(まかんで)の儘の洋裝で駈付ける。

あか〳〵とつれない秋の日脚は箱根蓮山の彼方へ沒して、見渡す限りの陣屋々々には篝火ならぬ電燈が燦として光眩く、前の奥山とはまた風變りの世界。花紅柳緑の旗風翩翻と蘭麝の香を送り、往さ來るさの天津乙女、眞白き富士額の濃化粧は、紫匂ふ筑波山藍の染模樣に映えて、地上莊嚴の五彩七寶まのあたり、朝念暮念觀世音が導かせたまふ金繩界道に、天人の午睡を許さぬ歌舞音曲の精進、妙乙力なジャズや小唄の関の聲、まさに軟派粹士の甦るべき逍遙處なり。

豫て期したることなれば、城方には平野關口の両夫人、巴板額の意氣軒昂。いづれも薙刀を小股に掻い込み、愛嬌靨に眼尻を低げ、黄金白金の鬼牙を咬み鳴し、厚薄両樣の絳唇を飜して、應戰の用意をさ〳〵嚴重なり。

勇士烈婦の取組、一座忽ち賑しく、快い心持の萠した時分に、配膳の娘子軍半玉の扮裝よろしく、角切折敷に銚子盃取揃へ、先づ軍神へ三獻と清醴を薦めたり。これと同時に青花の小盤に葛麪堆(くゝり)く、ぶッかきの氷白銀の砂(いさご)の光を添へて、夏尙

ほ寒く迫り來る。酒に水とは怪しかる振舞、さては敵の計略、何のこれしきの謀事と、取上げた正面甘黨の面々は、つる〳〵と物の見事に啜り上げて、お代り遲しと待つ間、鹹め手の寄手は、鐵火のみそを踏越え、逆茂木ならぬ酒盛を盛返し〳〵、茶盌の矛を奪ひ、針魚の盾を掠め、絲野蜀葵の矢をおッぺし折つて、小車海老の紅を流す血戰。斯る處へ城方の二番手として、蒲黃縅の一隊、千筋萬筋の旗指物、雲霞の如く茶そばから打つて出る。三番手には、憎さも憎しなつか獅子、奮迅目的に脇目も振らず、先番後番互先の笊そば黨。これこそ好き敵碁參なれと、取代へ引代へ邀へ擊てば、あとから〳〵新手を出す。流石の寄手も滿腹して箸並みも亂れ勝の折柄に、行司罷り出でて、當日持寄の寄贈品を御披露する。ここで休戰の籤を抽いて引換に分捕品を引渡す。

因に當日の獻立は、葛切、茶碗そば、茶そば、笊そば、御酒、小皿盛鉄火味噌、御茶、點心小型煎餅。

御持寄品目並に御寄贈者

課題　△ 首より上のもの　▲ あてがふもの

一、△ 下駄（……はいて首ッたけの意）　伊藤忍々洞
二、▲ おしやぶり　同　上
三、▲ あてがひぶち（寫眞挿額縁）　稲田吾山
四、△ 土瓶に湯呑　同　上
五、△ 軍配團扇　高岸拓川
六、△ 大善鮪鮨小皿　同　上
七、▲ 西洋目かづら　寺崎廣載
八、▲ 貨幣入れ　永江博
九、▲ ものさし　本多冬城
十、▲ 黃金パイプ　今井爽邦
十一、△ 花漬　同　上

十二、△ 獅子頭（玩具）　大野恵造

十三、▲ 吸取紙　西島○丸

十四、△ 鍵阿寺繪馬（眼）　磯ヶ谷紫江

十五、△ チューブ入齒磨　粮山柑子

○

漫談に花が咲いて時刻も移りける程に、餘興のなぞは如何との御催促。そこでなぞ〳〵の答案を取纒めて、忍々洞氏披講の役を承る。やがて一ッ〳〵披講のたびに、笑聲起り滿座陶醉またなき歡喜を漲らせた。何しろ趣味家の御歴々だから奇抜なものが頻出し、門外では判らぬ樂屋落もあり素破抜もあることは勿論、題が題だけに會員間には更に枯木に花が咲いた心地でした。

なぞなぞ解答（次第不同）

課題　右題　○『萬盛庵の女將』とかけて
　　左題　●『奇子さん』とかけて

（上解）

○ 上手な三味線　（心は）調子がよい

● お馬の歩み　シャン〳〵

○ 繪に描いたダリヤ　花（鼻）の恰好がよい

● 刀の切先　かすり切る（耕皆る）

○ 上手な芝居　見倦きがしない

● 金槌　頭が大きい

○ 夜の撒水　キラリと葉（齒）が光る

● 奇麗好きの灰皿　ハイカラ（灰空）

○ 電燈の蟲　火取（獨？）

● 大蛇　奥山でトグロを卷く

○ ラムネ　目から鼻

● 甘露版　誰でも彫れる（惚れる）

○ 勾踐の屎嘗め　再び越（悦）に入る

●土用の硬餅　こんがり燒かれる
○金網のおびんづる　撫でて見たい
●質のよい炭　おこるから手を出すな
○昔の和田平（鰻屋の名）　江戸前で焙しがらせる
●支那料理に熟れた人　取廻しがうまい
○傳法院の座敷　廂が大きい
●昔の墨堤　花見（齒並）がよい
○朝の不忍池　蓮（ハス）が淡ましい
●與三の金　横で分ける（髪の事）
○下手で通つた演說　その……その……で名高い（園子さん）
●鳥さしの指　とりもち（取持）に熟れて居る
○川の水　見れば色があり、掬へば色がない
●カヂノフオリーの見物　前に坐る

○出の半鐘　どつかで燒けて居ます
●江戸川のボート　關口へ着く（關口夫人）
○仁左衛門の好み　よく家を繰廻す（廻り舞臺）
●大薩摩の横　淺黄幕（蹴出し水色縮緬）
○ケーブルカーの鐵鎖　上げたり下げたり
●拍子木　細くてもシヤキ〳〵と鳴る
○どこかが癢い　蟲が附いたかナ
●米屋の娘　白くて割がよい
○寄せ鍋うどん　賑かであたたかい
●高山植物　奥山に咲く
○藥師寺の吉祥天　天平時代の美人畫を見るが如し
●濱口冨士子の顏　なかびく（中低）
○西部戰線の親類　全部身體異狀あり

●賣出しのスター　無闇に騒がれる
○田中家の横　ちよつと河内家に似て居る
●お婆アさんの葬式　興(腰)に赤い物を見せる
○あきだなの惠比壽　ニコ〳〵して居る
●疫病神　好かれちやア困るとサ
○狂つたサイレン　中々しまらぬ
●病み呆けた闘取　臀の肉が落ちてゐる

以上　無記名投票のことゆゑ解答者の名は掲載せず。

賞品　俳優の千社札を貼つた包紙の中に、同じく俳優の紋を印刷した端紅の吉野紙にくるんだ好文木の櫛一枚。

これは御銘々の御贔屓もあり、艶ッぽい御思召もあり、謎を美文的に解いで戴きたいとの意を含めた寄贈者の手前味噌であります。

右賞品寄贈者は申出により匿名と致します。

右披講を畢つた後、一しきり餘談の市が榮え、また改めて笊蕎麥の御注文もあつて、更に揚り花の御服が濟んで、十時十二分早立の西島氏を先頭にぽつ〳〵退散の幕になつた。十一時にはめでたく散會。

因に西島氏は當日他に御參會の先もある中を繰合せて御光臨下さつた。先方へ御遲參の段は甚だ恐縮の至でした。深く御詫を申上げます。

○

當日御出席御連名

伊藤忍々洞　稲田吾山　高岸拓川
寺崎廣載　永江博　本多冬城
今井爽邦　大野惠造　西島○丸
磯ケ谷紫江　籾山柑子　（着到順）

○

四五両月の奥山會記掲載の『奥山』第貳は漸く製本が出來ましたので、當日御來會の各位へ呈上いたしました。

○

萬盛庵暑中御伺の同庵印物の御手ふき、布巾、團扇を各位へ呈上致しました。

五・八・一九・記

東西東西

前號の本欄に奥山萬盛庵を高砂に擬した小謠を挿みましたが、章句に脱漏があつて甚だ索然たるものに墮しました。正誤かたゞ〳〵更めて左に掲載いたします。

高き名や、此の奥山に見世開けて、月見あわゆき花まきと、名代ざるそば仕出しては、遠く近くの御贔屓で、はや數十年になりにけり。

○

七月は萬盛庵の方も移轉後まだ落付かぬところへ、晝夜とも引切なしの出前に忙殺され、それに新店御實檢の御馴染様方御光來が搗ち合つて一向閑日がなく、モ少し〳〵で一日延しになり、到頭奥山會の御案内を出す機會を失ひ、ボンヤリお流れになりました。

八月まだお暑いとは存じましたが、あまりサボつて居ては皆様へ面目なく、卒爾に八月十八日例會開催の御案内を差上げました次第です。不行届の段は幾重にも御容赦々々々。

五・八・一〇・記

奥山會記

九月十八日曇天、午前小雨あり、午後も雨催ひの空あやしく出馬をにぶらせし

が、定刻までに已に三四の御着到があつて、四五日このかたの欝陶しさを喞ち、寒暄の挨拶を取交すうち、陸續御光臨の君子総て十六位。

○

當日御出席御連名

高岸拓川　久永辨次郎　伊藤忍々洞
今井爽邦　稲田吾山　大木繁
山崎萩風　村瀬忠太郎　齋藤幸次
本多冬城　鈴木潤三　磯ヶ谷紫江
粂山柑子　栗原光夫　宮尾しげを
西島○丸

（着到順）

○

當日は威儀堂々たる大木氏、性能調査の大家齋藤氏、風采貴公子然たる栗原氏

蕎麥屋に產れて一生を蕎麥と終始する瀧野川中里の藪忠老人、以上四位御新顔。一座賑々しく出幕になつて、御茶さこしめす處に、當夜萬盛庵の女將園子さんは御不例とあつて、例の愛嬌百パーセントのお秀子ちやん、右と左に二人前の責任を負荷（しよ）つて出て、サービスの矢表に立つといふ勇猛振。尤も此人の御先祖を尋ぬるに、人王百九代明正天皇の御宇、日本國中に武名かくれなき宮本武藏の血統を受繼ぎ、二天流は御家藝。柔道は武藏が遺せし『柔（やはら）の名目』片ッ端から極意を究めしえらぶつなれば、柔道の諸流多きが中に、關口流こそ天下無雙の武術なんめりと、近頃は關口流を一生懸命後生大事と相守つて、腕前いよ〳〵すぐれ、なんの現代のヒヨロ〳〵男、五人十人束にして腹櫓に上げズデンドウと抛り出すくらゐは、雜巾を絞るよりもいと易し。昔の巴御前は七十人力、板額は其の半額の三十五人力。我が秀子ちやんはゲンピン懸値なしの十七人半力。即ち巴御前の四分の一に當れども、當世男はずッと弱蟲に成り下つて居るから、對抗上の比例は猶且

七十人力ぐらゐがものはある。こんな力量を持つて居ることはオクビにも出さずいつもすました顔で目をショボ〳〵、おとなしやかに猫を被つて居るから、此人を「弱きものよ、爾は女なり」なぞと侮つてかゝると、飛んだ目に逢ふべし。序ながら茲で御注意して置く。

さて此のお秀子ちやんが、圓陣を布いて席上の斡旋、ソッのあらう筈なし。御連中いづれも相好を——震災に遭つた御濠の石垣の如く——崩して悦に入り、「こゝのそばはいゝ」とばかり、何のそばだか、そばで聽いて居て判斷のつかないそばだ。尤も萬綠叢中紅一點式に觀察を下すと、此人のそばに居てそばを喫すると一段も二段もそばの味が勝れるといふことに歸着する。

お秀子ちやんを取圍んで、そばがき善哉を平げ、山吹の出花を啜り、或は頻に滿杯を引き、白尨鐵火の味噌を颺げ、太打の太刀捌き、天法螺の虚々實々、笊の目の荒木又右衛門、細かきは柳生みつよし。牛飲馬食は往昔の勇士豪傑型、現代の健康は未多眠の攝取にあり。兎角宵ッぱりは朝寢坊を禮讃するが、飲むと食ふとは人後に墮せじと、下戸上戸の旗印を別たず。一視同仁、談笑嬉戯の間に流連荒亡の光景。其が中にも今宵新客の齋藤性能先生の方へは熱心な質疑の箭が飛びそれを一々回避せず性能の一から十まで縷々と説明應酬される雄辯快辯。勿論我等世間見ずの輩には耳新しい珍説が多く、談論風發、先生の獨壇場とあつて、時計の鍼の遷るを知らず、一座陶然として天國に在る心地。其内に後苑莊寄贈の『鐘供養手冨貴』『特製繪はがき』の數種が各位の御膝下へ配られる。例によつて御持寄の課題に因む寄贈品が抽籤で分配される。御一同の御趣向御風懷が窺はれて興の盡きるを知らない。

○

當日御獻立

一御煎茶

一御酒　一御皿盛　鐵火味噌
一御碗　一蕎麥　太打
一蕎麥　天麩羅　一蕎麥　笊
一蕎麥湯

○

御持寄品目并に御寄贈者

課題　△上下のあるもの
　　▲日本國盡

一、△信州諏訪兩社御守　高岸拓川
二、▲木刀二本……武藏　同上
三、▲シヤポン一箱……阿波　久永辨次郎
四、△角力番附　伊藤忍々洞
五、△「天狗」の面と「おかめ」の面　今井爽邦
六、▲弓一張……畿内四ヶ國……矢的を缺く　稲田吾山

七、△瓢簞　同上
八、△幸福の猫（文鎭）　大木繁
九、△小唄本（珍品）二册揃　山崎萩風
十、△假卷一本　村瀨忠太郎
十一、▲若狹塗の箸一膳……若狹越前　嶋藤幸次
十二、△鐵道時間表一册　本多冬城
十三、▲さつまあげ一包……薩摩　鈴木潤三
十四、△列車時刻表一組（甲）　磯ヶ谷紫江
十五、△列車時刻表一組（乙）　同上
十六、△石鹸いれ函　同上
十七、▲白木綿三尺紐付……越中　失名
十八、▲生干（なまび）いもがら……肥後　失名
十九、△越後の木牛　宮尾しげを

二十、△ 醤油さし

廿一、△ 眞也氏醉筆松茸圖色紙

○

戸外は一頻り雨となつて、御歸路の程もと案じられましたが、十時近くになつて雨歇み。遠い御住居の方から「お立ち」の聲が懸る。今日の御一同樣は晴好雨奇來、イザ此の間にと三々五々、まだ淺草は宵のうち、鐘四ッといふ刻限にめでたくお開きになりました。

○

當日寺崎廣載先生は御出席の御回示を戴いて居ましたが、急に御差支が出來て御缺席との御通知に接しました。

五・九・一九・記

西島○丸
關口秀子

157
107
1

No.

昭和五年十二月十五日印刷納本
昭和五年十二月廿五日發行
『限定壹百部』

不許複製
奥山第三

編輯兼發行者 磯ヶ谷孝治 東京府和田堀町和泉二四三
印刷者 宮西外次郎 東京市麹町區三番町六十九番地

發行所 東京市本郷區駒込神明町九〇 明元社
印刷所 東京市麹町區三番町六十九番地 邦文舍

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black